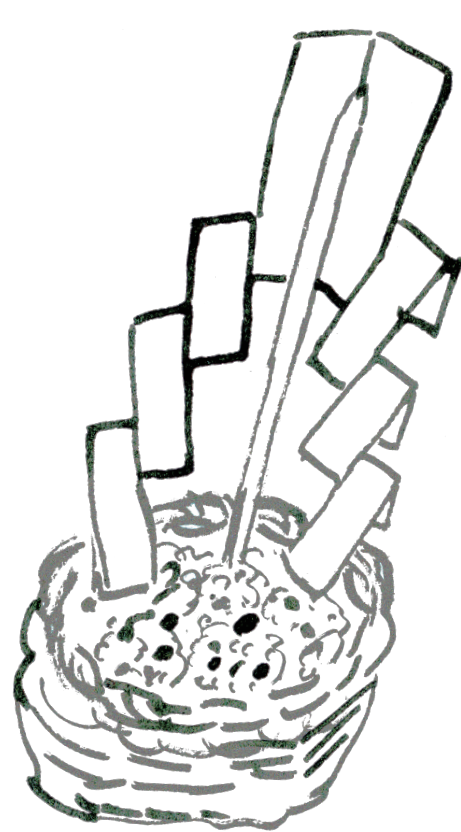


第十話

南宮の女神様と山王様



八幡のお八幡様から、こっちの南宮神社に来て、居候して泊まっている女神様あったんだと。それが立派な美人であっただと。

それで、その女神様を色の御前と呼んでいたんだと。

この神様は、もともと船形山の升沢の船形神社から来ている女神様だったんだけど、ほれ、美人だから、山王神社の山王様が、その女神様に恋してしまったんだと。

さて、その美人の女神様が、いよいよ船形山さ帰ることになったら、山王様はその跡追いかけたんだと。

女神様は逃げて逃げていくうちに、芋の子の葉で滑って転んでしまったんだと。

そのうちにも追いかけてくる山王様は、お茶の葉で目を突いて、目が見えなくなったんだと。だから、ここ南宮では、今も芋の子を作らるねえんですよ。

それで、わたしが、市川の湊神社の神官さんを頼んで、お祓いしてもらって、それから、塩釜市場さ行って、芋の子二俵買ってきて、みんなして、いっせいに芋の子植えたのしゃ。

みんなで植えれば、女神様の祟りもねえべと思ってやあ。それから、芋の子を作って食うよになんだよ。

山王様はお茶の木で目を突いたから、目を失ったわけだ。そのせいで、いまだに山王には目の不自由な人が多かったんだね。

そして、山王の人たちは、船形にある船形神社へは、絶対行かなかったんだよ。お参りに行かなかったんだよ。

その続きの話があつてよ、山王様が、女神様を追いかけていったわけだが、なんぼしても、どんどん逃げらって、追いつかなくてね、升沢まで行ったわけしゃ。

そして、船形神社のずっと手前に、大きな農家があったんだと。その農家の旦那さんが臼掘りしてたわけしゃ。

それで、女神様が、

「こういうわけだから、助けてしろ」
って頼んだわけしゃ。

昔の臼は大きいんだから、そいつ、ぼっぽりとひっくり返して、その中さ、女神様をかくしたわけだ。

だから、山王様が行ったつても、女神様、いねえちゃわ。

そこで、あきらめて戻ってきたんだと。

このあたりの人たちは、岩切でも、利府でも、みんな升沢の船形神社さお参りしたが、山王の人たちは、絶対お参りしなかったんだよ。